



学校教育目標 自ら学ぶ子・やさしい子・元気な子

諏訪小だより



富士見市立諏訪小学校

令和7年7月18日

学校だより NO. 5

校長 石井 勝博

算数の授業を通して物事の考え方を教えたい

令和7年度1学期、保護者・地域の皆様、学校へのご支援・ご協力、大変ありがとうございました。心から感謝申し上げます。

さて、子供たちは、この4か月で大きく成長しました。一人ひとりの成長は、先日行われた個人面談で各担任よりお話させていただきましたが、終業式当日、担任から渡される「あゆみ」にも記されています。ご家庭でお子さんと一緒に「あゆみ」を見ながら、1学期を振り返り、お子さんが見せた「がんばり」や「努力」を褒めていただければと思います。よろしくお願いいたします。

明日からは夏休みとなります。この夏休みだからこそできることにチャレンジし、たくさんの思い出を作っていたきたいと思います。2学期の始業式に元気な姿で子供たちとお会いできるのを楽しみにしています。

【本校が研究している算数について】

学力向上を目指し、算数科の学校研究を進め3年目を迎えました。今年度は、12月10日に市内の先生方や教育委員会の先生方をお招きし、学校研究発表会を行います。

発表に向け、1学期に指導者（埼玉大学教育学部附属小学校 藤田 明人 先生）を招聘した校内授業研究会を行いましたので紹介させていただきます。

2年4組秋山有菜先生「かさ」

問題「ペットボトルに入っている水のかさは、どちらがどれだけ多いでしょう。」

※2つの量と入れ物が違うペットボトルを見せ、考えさせました。

どちらが多いかは、入れ物が違うことから、同じ入れ物に入れば高さで比べることができることに気づきました（これもすごいことです）。その後、「どれだけ多いのか」をどのように調べたらよいのかを考えました。

（T：先生 C：子供）

T：どれだけ多いかをどのように比べますか

C：コップに移して

（C：何こ分か C：同じものでね）←つぶやき

T：前にもやったことがありますね。いつやりましたか

C：1年生のとき

C：長さのときにやったよ

※本研究で求めている力は、上のやりとりにもあるように新たな課題に対して、既習事項（これまでに習ったこと）を使って解決していくことです。「どれだけ」を比べるために何かの何個分で考えると数値化でき数の大小で比べることができることに気づくこと、考えつくことを大切にしています。ここでは、1年生で鉛筆の長さの違いを比べるとき、消しゴム何個分やクリップ何個分を考えたときの考えを活かしています。

※その後、授業ではあえて3種類（大・中・小）のコップを用意し、2班ずつ同じコップを与え調べさせました。結果を発表すると…

C：あれっ？数が違う！

C：コップの大きさが違うからだよ

C：コップが違うから比べられないよ

T：みんなで比べることができるようにするにはどうしたらいいかな

C：コップの大きさを同じにする

※コップの大きさが違うと数が違い、クラスみんなで一緒に比べることができないことに気づかせ、クラスみんなで比べるには共通したコップが必要であることを話し合いました。その後、いつでもどこでもだれでも比べることができるようにするには、長さのときと同じように「単位」が必要であることに気づかせ、「dL」を指導しました。

「測定」の学習では、「長さ」「かさ」の他にも「重さ」や「面積」「角の大きさ」などがあります。

学校では、「重さって何かな」「面積って何かな」というところから教えます。「どれだけ違うか」を考えると、数値化すること、その後、単位が必要なこと、そして、ものさしなど便利な道具があることに気づかせていきます。